

PETRI

ペトリFTIIの使い方

目次

お買上げありがとうございます.....	3
撮影はかんたんです.....	4
各部の名称.....	6
おもな性能.....	8
水銀電池を入れます.....	9
裏ふたの開け方/フィルム巻上げレバー.....	10
フィルム枚数計/フィルム感度のセット.....	11
レンズの交換.....	12
深度目盛/赤外線指標.....	13
ピントの合わせ方.....	14
シャッターダイヤル/絞り目盛.....	15
フィルムの装てん.....	16
TTL 露出計の測り方.....	18
カメラの構え方.....	20
フィルムの巻戻し.....	21
セルフタイマー撮影.....	22
フラッシュ撮影.....	23
交換レンズの世界.....	24
専用アクセサリ.....	28
カメラとレンズの手入れ.....	30

標準価格

F1.8付

カメラ ¥45,400

ケース ¥2,400

F1.4付

カメラ ¥52,600

ケース ¥2,400

(ブラックは ¥2,000高)

(ボディ単体 ¥31,000)

お買上げありがとうございます

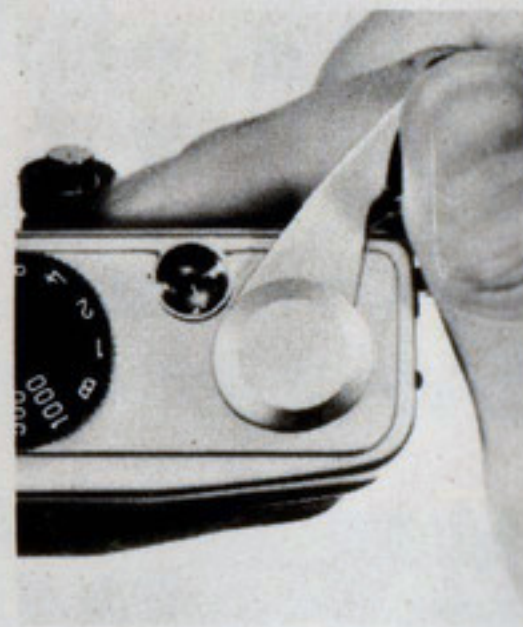
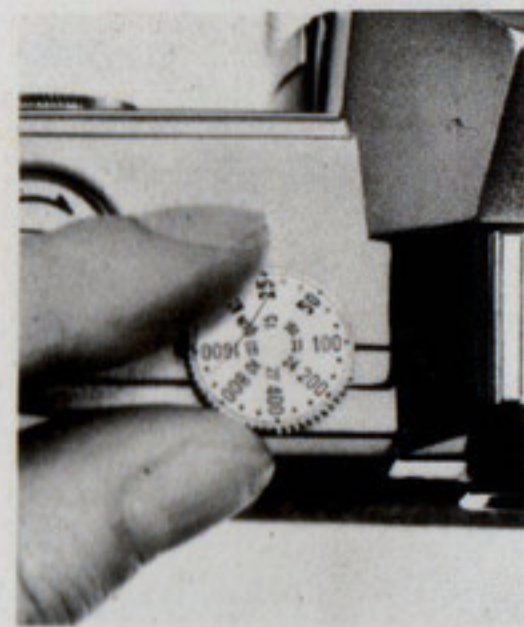
ペトリFTIIは、もっとも使いやすいTTL一眼レフとしてロングセラーを続けたペトリFTを徹底的に検討、新たにコードレスシンクロ接点を装備、スタイルも全面的に一新したTTL機の決定機ともいえる最高級一眼レフです。

TTLは撮影レンズを通ってきた光を測定する厳格な露出システム、レンズ交換をしてもその良さは変わらず、接写でもフィルターを付けても露出計算の面倒がありません。

ペトリFTIIはあなたのどんな厳しい要求にもお応えできる万能一眼レフ。いつまでもあなたの愛機としてご活用くださいますよう心からお願い申し上げます。

●TTLとは=Through the Lensの略、撮影レンズを通ってきた被写体の光を測る、もっとも正確な露出方式です。

撮影はかんたんです

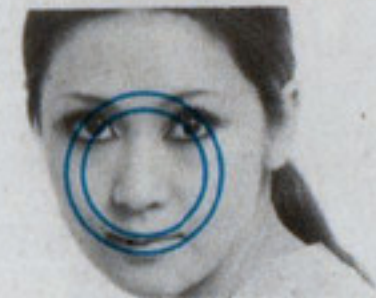


1 フィルムを入れます。
(16頁参照)

2 フィルム感度をセッ
トします。(9頁参
照)

3 フィルムを巻上げま
す。(10頁参照)

4 露出を決めます。
(18頁参照)
シャッター速度を決め、絞
りで調整する。或いはこの
逆、絞り先行でもよい



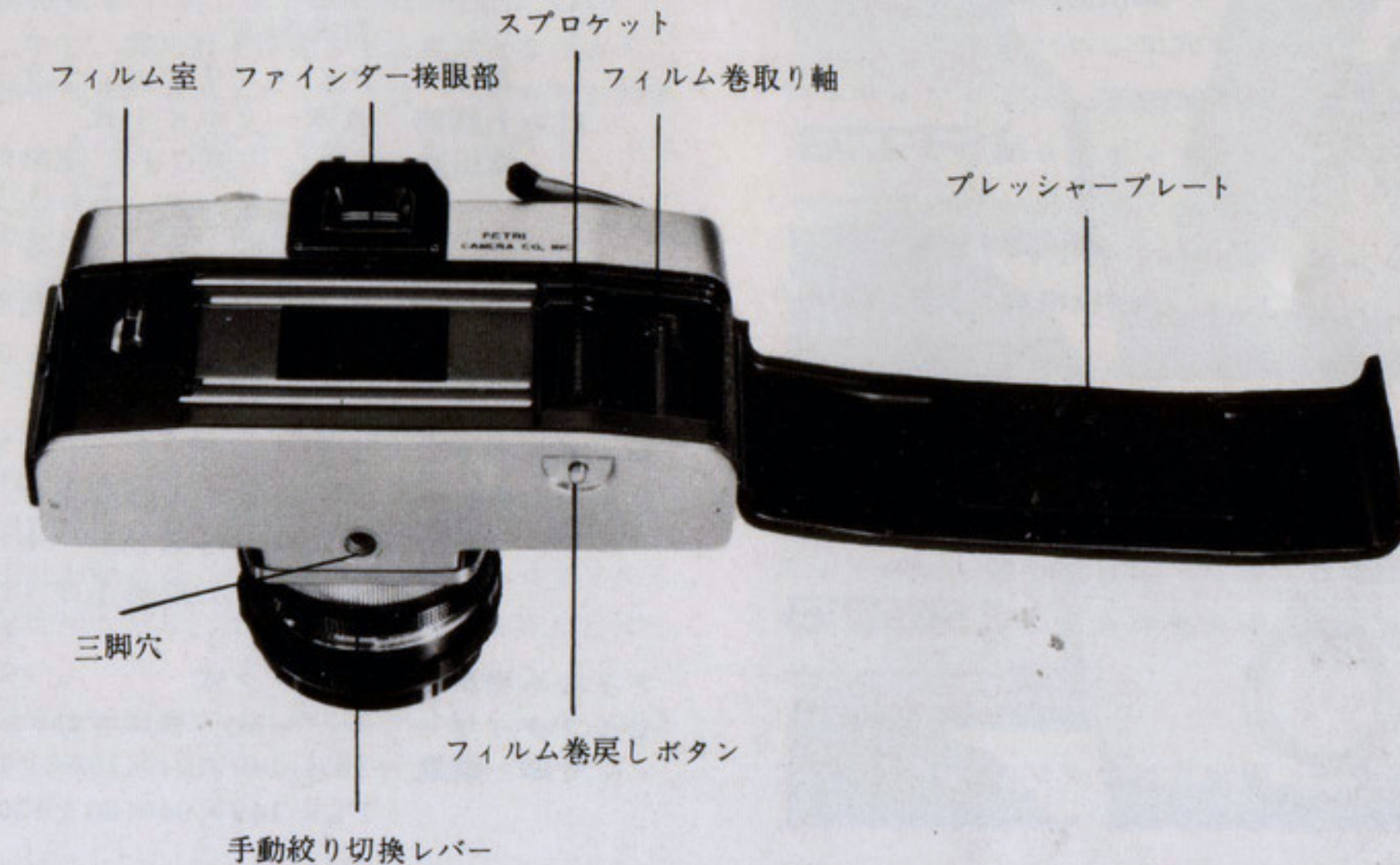
5 カメラをしっかり構
え、構図を決めます。
(20頁参照)

6 ピントを合わせます。
(14頁参照)

7 レリーズボタンを静
かに押します。

8 それだけで美しい写
真が写せます。

各部の名称



おもな性能

型式	TTL 露出計内蔵フォーカルプレ ン式35ミリ一眼レフ
画面サイズ	24×36ミリ 35ミリフルサイズ
使用フィルム	パトローネ入り35ミリフィルム 20E X・36E X
標準レンズ	ベトリ55ミリF1.4 5群7枚 F1.8 4群6枚構成 完全自動絞り
レンズ交換	バヨネット式ベトリマウント
シャッター	布幕フォーカルプレ B・1 〜 $\frac{1}{1000}$ 秒 等間隔倍数系列 1軸 不回転ダイヤル
シンクロ	FP・X自動切替 コードレス シンクロまたはJISB型プラ グ
ファインダー	固定式ペンタプリズム 0.9× マイクロイメージ フレネルレ

ミラー ピント調節 露出計

フィルム装てん フィルム巻上げ

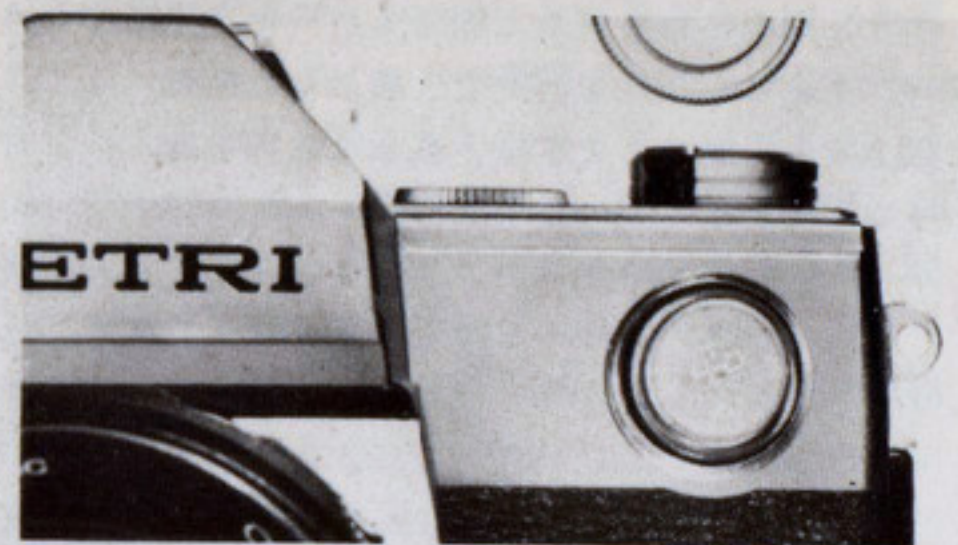
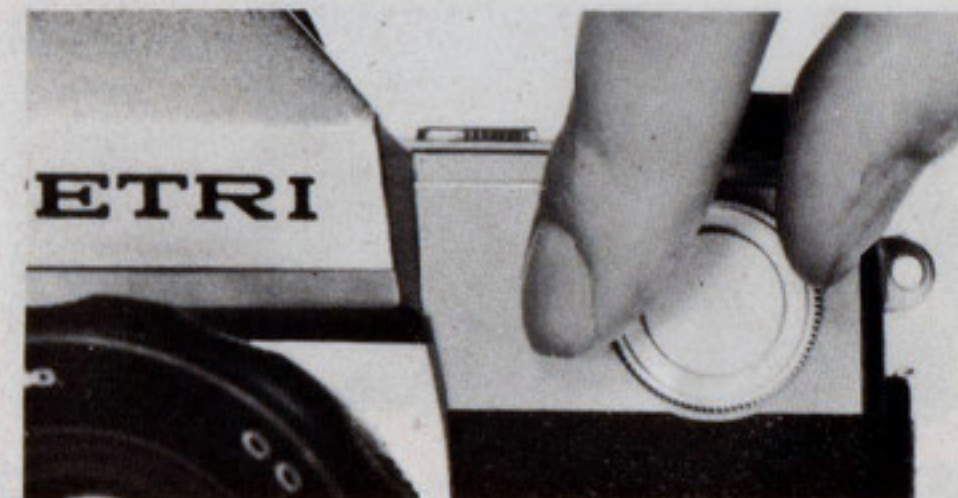
フィルム巻戻し セルフタイマー 寸法・重量

レンズ・コンデンサー併用 露出 計指針有	クイックリターンミラー 直進ヘリコイド式 TTL 方式CdS 連動露出計内 蔵 測光方式・絞り込み式平均 輝度測光 ファインダー内指針 による定点式 測光範囲EV 2.7 〜18 感度目盛ASA 25〜1600 DIN 15〜33
フィルム装てん フィルム巻上げ	シンプルロード・システム レバー式1作動巻上げ 準備角 12° 巻上げ角180° セルフコッ キング 二重巻上げ・二重露出 防止
フィルム巻戻し セルフタイマー 寸法・重量	クランク式 レバー式 5〜9秒 F1.4 149×94×104ミリ1040グラム F1.8 149×94×90ミリ900グラム

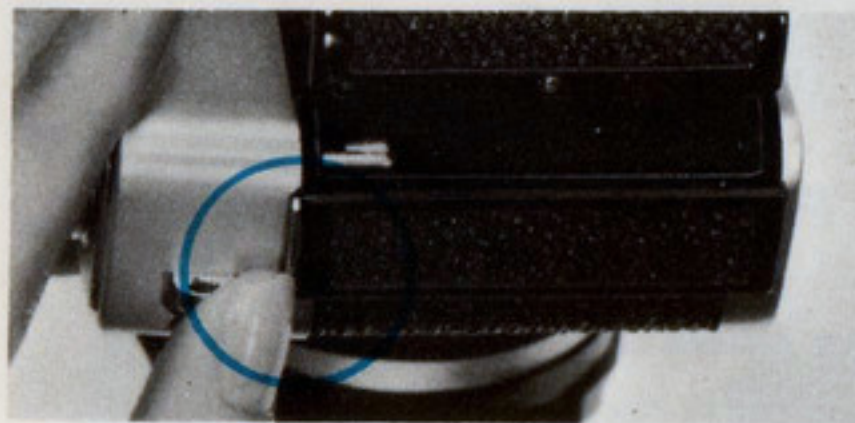
水銀電池を入れます

まず水銀電池(1.3V)を水銀電池格納室に入れます。これは、TTL 露出計を作動させる電源となります。

1. 水銀電池格納室のふたのフチは、ギザギザが刻まれているので、指の腹を当て、左に回すと、ふたは外れます。
2. 水銀電池は、ふたの裏側に印されているように⊕文字が外側になるように入れて、ふたを元のよう
にしっかりねじ込んでください。
3. 水銀電池のスイッチはフィルム巻上げレバーを巻
き上げるとスイッチ・インされ撮影を終えると自
動的にスイッチは切れます。
4. 水銀電池は、寿命が切れると、性能が一時に落ち
露出計が働かなくなるので、すぐわかります。1
年位使用したら、なるべく交換するようにしてく
ださい。
5. 水銀電池の交換には、ナショナルM-1D、東芝
TH-MC 1.3Vのいずれかをお使いください。

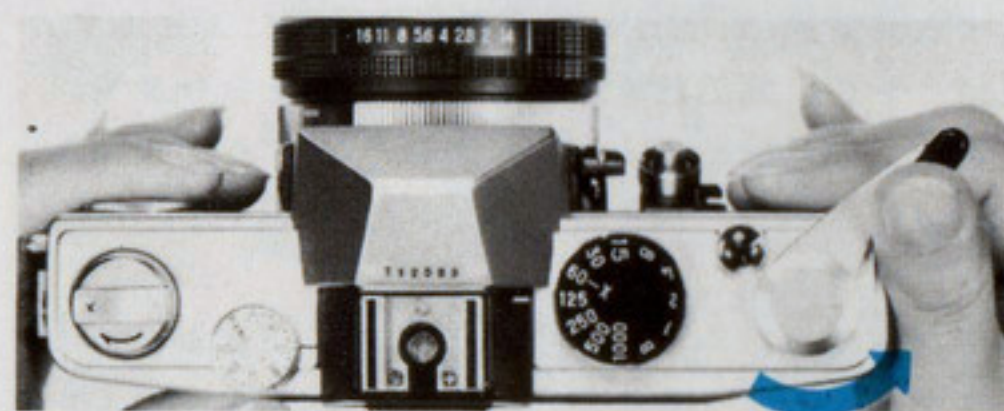


各部の扱い方



裏ぶたの開け方

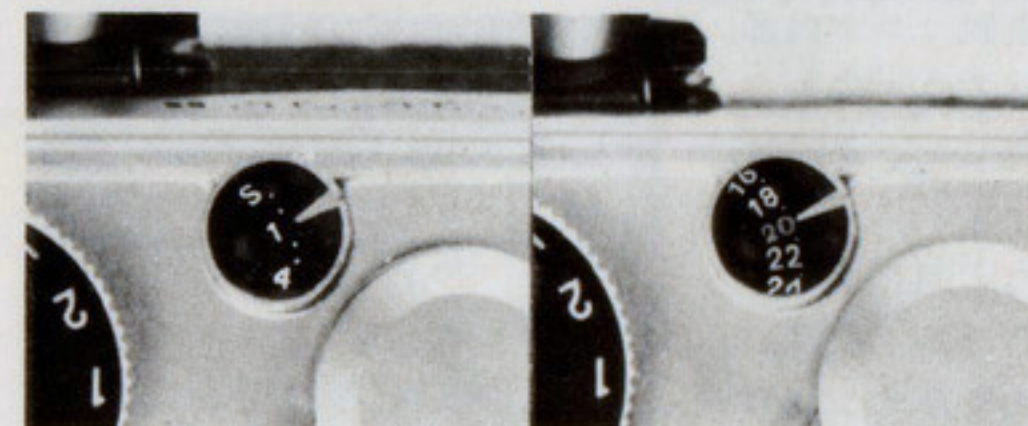
ボディ側面にある裏ぶた開閉レバーに爪を掛け、上部にレバーを引くと、裏ぶたは簡単に開きます。閉じるときは、裏ぶたを押せばパチンと音がして閉じます。



フィルム巻上げレバー

1. フィルム巻上げレバーを少し引出して親指を掛け、止まるまで回します。
2. 巻上げレバーは、指を離せば元に戻りますが、ボディとの間にスキマができ、次の巻上げをしやすくしています。これは指で押しこめば、元に戻ります。
3. レリーズボタンを押すと、シャッターが切れ、再び巻上げができます。

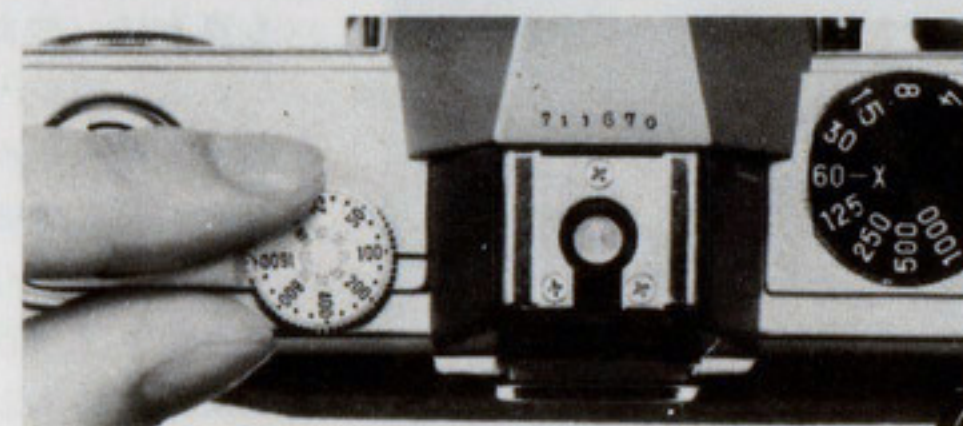
●フィルム巻上げレバーを一回巻上げると、①フィルムが1コマ送られ、②シャッターがセットされ、③水銀電池のスイッチが入りミラーが作動開始状態になり、④自動絞り機構が準備され、⑤二重巻上げや二重露出が防止されるなど、多くの働きをします。



フィルム枚数計

フィルム枚数計は、S(スタート)、1、4、6、8と2枚毎に刻まれ、巻上げレバーを巻上げると1コマずつ進みます。オレンジ色の指標の先の数字が撮影枚数、12と20と36は赤字で刻まれており、12枚撮り、20枚撮り、36枚撮り、それぞれの撮影終了時を告げています。

裏ぶたを開けると、フィルム枚数計は、自動的に(スタート)に戻ります。



フィルム感度のセット

ご使用になるフィルムのASA感度と、カメラ側のフィルム感度ダイヤルの数字を、あらかじめ合わせておきます。このASAが合っていないと、いかに露出計が正しく作動しても、適正露出は得られません。フィルム感度ダイヤルを右、または左に回し、ダイヤル横の黒線に数字を合わせます。

ASAは国産及びアメリカ系のフィルム感度規格、内側に赤で刻まれたDIN数字は、ドイツ系のフィルムを使用する際に用います。

レンズの交換

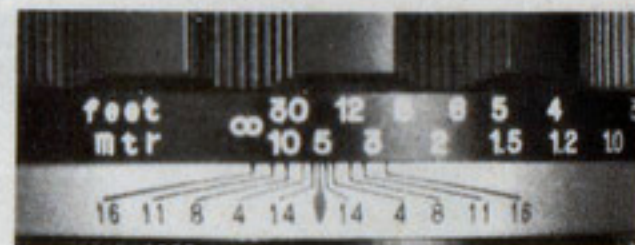
ペトリFTのレンズ交換は、バヨネット式になっており、簡単、確実にこなえます。

カメラ側にあるレンズ着脱リングを、カメラに向かって時計の針と反対方向に約40度、赤い切りこみが真上になるように回すとレンズは外れます。取りつける場合はこの逆、レンズのパヨネット部に刻まれている赤ポチを真上に、着脱リングの赤い指標



も真上に、つまり、着脱リング内部にある、赤い円にそれぞれの赤を合わせて差しこみ、着脱リングを時計方向に回して締めつけます。

交換レンズもまったく同じ操作で着脱できますが、ペトリ専用交換レンズ以外のネジ込式の交換レンズでも、アダプターリングを使用することによりご利用出来るものもあります。



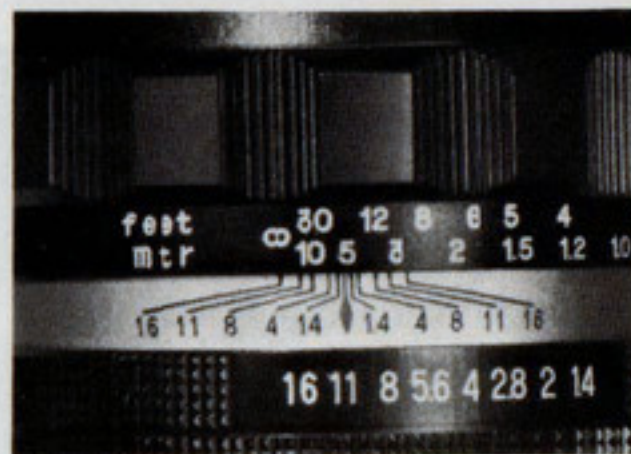
深度目盛

レンズ鏡胴部の赤い距離指標◆の左右対称に、F 1.4 レンズの場合、1.4、4、8、11、16の数字(Fナンバー)と線が刻まれています。これはピントの合う範囲を示した深度目盛です。

これは、スナップ撮影などに利用すると便利です。例えば距離を3メートルに合わせ、16に絞ると、1.9メートルから6.5メートル近くまでピントが合い、いちいち距離を合わせなくても写せます。

F1.4レンズ被写界深度表 F1.8

FNO. meter	1.4	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
0.6	0.59 0.61	0.59 0.61	0.59 0.61	0.59 0.62	0.58 0.62	0.57 0.63	0.56 0.64	0.55 0.66
0.7	0.69 0.71	0.69 0.71	0.69 0.71	0.68 0.72	0.67 0.73	0.66 0.74	0.65 0.76	0.63 0.79
0.8	0.79 0.81	0.79 0.81	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.84	0.75 0.86	0.73 0.88	0.71 0.92
1.0	0.99 1.02	0.98 1.02	0.97 1.03	0.96 1.04	0.94 1.06	0.92 1.09	0.90 1.13	0.86 1.20
1.2	1.18 1.22	1.17 1.23	1.16 1.24	1.14 1.26	1.12 1.29	1.09 1.34	1.05 1.40	1.00 1.51
1.5	1.47 1.53	1.45 1.55	1.43 1.57	1.41 1.60	1.38 1.65	1.33 1.72	1.27 1.83	1.19 2.02
2	1.94 2.06	1.91 2.09	1.88 2.13	1.84 2.19	1.78 2.28	1.70 2.42	1.61 2.63	1.48 3.07
3	2.87 3.15	2.81 3.21	2.75 3.31	2.65 3.46	2.53 3.68	2.37 4.08	2.20 4.71	1.96 6.36
5	4.64 5.42	4.50 5.62	4.33 5.92	4.09 6.43	3.81 7.25	3.46 8.99	3.10 12.83	2.65 44.59
10	8.65 11.85	8.18 12.87	7.62 14.55	6.91 18.01	6.15 26.67	5.28 93.40	4.49 ∞	3.59 ∞
∞	63.63 ∞	44.54 ∞	31.82 ∞	22.27 ∞	15.91 ∞	11.14 ∞	8.10 ∞	5.57 ∞



赤外線指標

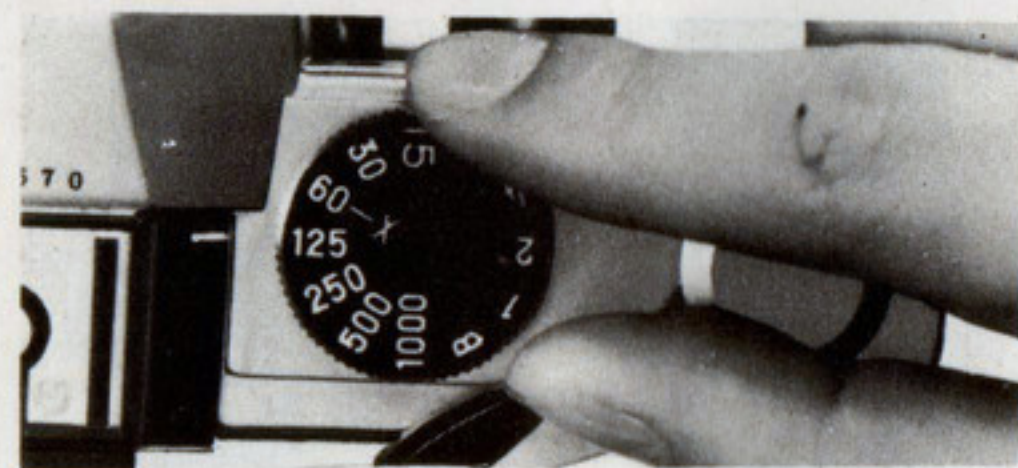
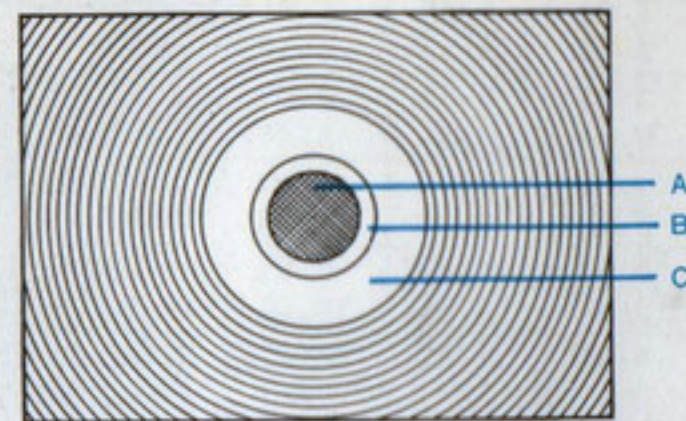
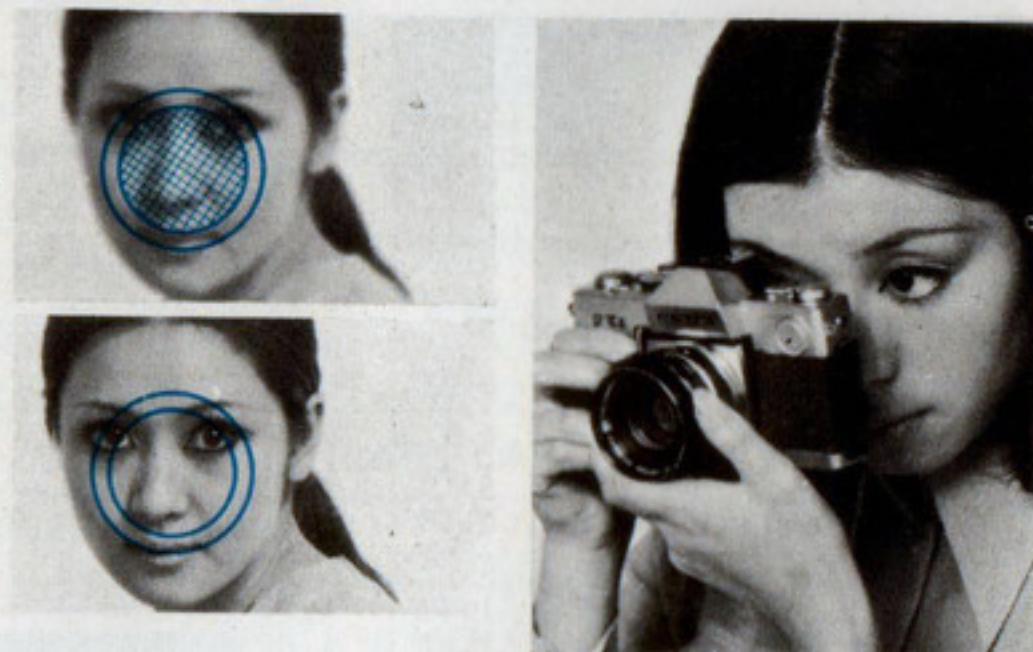
赤い距離指標◆の左の赤線(F 4)は赤外線指標です。赤外線フィルムを使用するときは、一度ピントを合わせ、その距離目盛を赤外線指標までずらして撮影してください。なお、赤外線フィルムの撮影には、赤フィルターをご使用ください。

ピントの合わせ方

ファインダーをのぞきながら、フォーカスリングを右または左に回すと、写そうとするものがはっきりしてきます。特に中央のマイクロイメージ（図A部）がシャープな像を結んだところでシャッターを切れば、ピントのいい写真が写せます。

本機のファインダーは、500個に及ぶ極小のレンズ群で構成されたマイクロイメージ。常に鮮鋭な像を結んでおり、ピント合わせのお手本となる透明部（図B）被写界深度確認部（図C）からなっており、更にその外側はフレネルレンズで画面の隅々まで明るく見られます。

被写体までの距離を知りたいときは、赤い距離指標◆と合致した数字を読みとります。草色がメートル表示、白色の数字がフィート目盛です。



シャッターダイヤル

シャッターダイヤル上の数字は、シャッター速度を示します。1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒、1000は $\frac{1}{1000}$ 秒の意味です。Bはバルブ露出のことで、レリーズボタンを押しているあいだ中シャッターが開き、放すと閉じます。必要な速度をダイヤル横の白線に合わせ、ご使用ください。

- シャッター目盛はクリックストップになっており、中間速度は使えません。
- シャッター速度のセットは、フィルム巻上げの前後いずれでも行なえます。



絞り目盛

標準レンズのFナンバーは1.4、1.8(2)、2.8、4、5.6、8、11、16の8段階が刻まれています。中間絞り（例えば8と11の中間位置）も使えます。このFナンバーが大きくなるほど、絞りは小さくなります。

絞りのセットは、目的のFナンバーを赤い指標◆（距離指標共通）に合わせます。Fナンバーの赤字の11と、距離目盛の赤字の5メートルにすると、広範囲にピントが合い、スナップなどがすばやく行なえます。

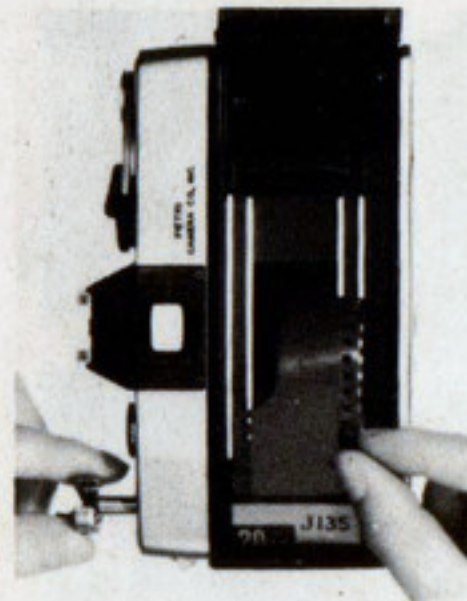
フィルムの装てん

新形式のシンプルロード・システムを採用、と
かく失敗しがちなフィルム装てんを簡単、確実な
ものにしてあります。フィルム巻取り軸に刻まれた
4ヶ所の溝がそれで、そのどれにでも、フィルムの
先端を差しこむだけでいいのです。

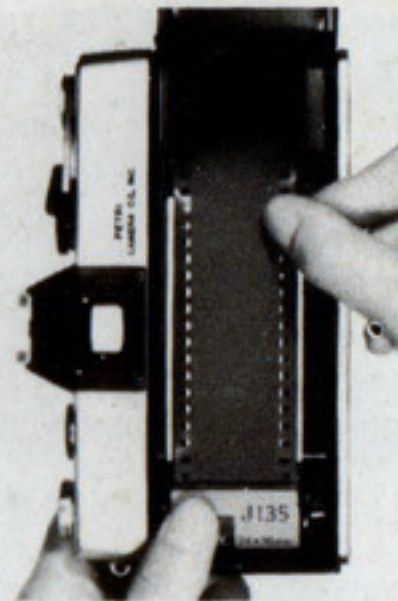
- フィルムはパトローネ入り35ミリ、12枚撮り、20枚撮り、か36枚撮りを使います。
- フィルムの出し入れは直射日光をさけてください。



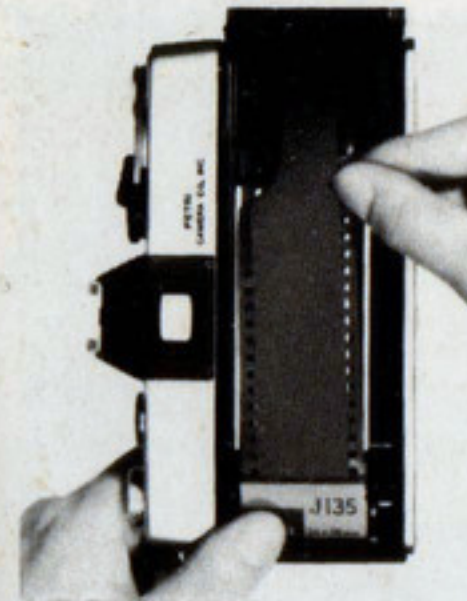
1. 裏ふたを開きます。
(10頁参照)



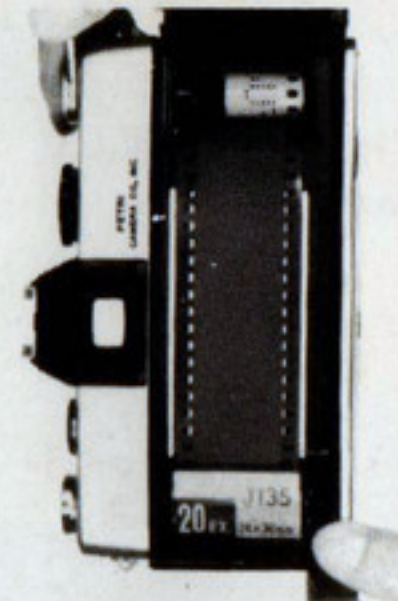
2. 巻戻しクランクを引出し、フィルムをフィルム室に入れ、巻戻しクランクを元の位置に戻します。戻らないときは左右に少し回しながら押込むと完全に入ります。



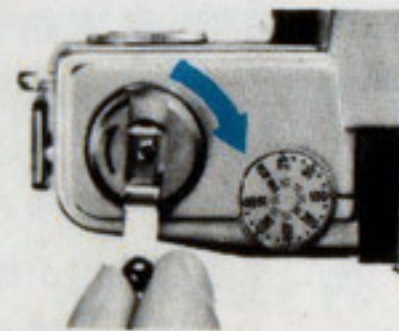
3. 左手で軽くパトローネをおさえながら、フィルムの先端を巻取り軸に刻まれた溝のどれにでも差しこみます。



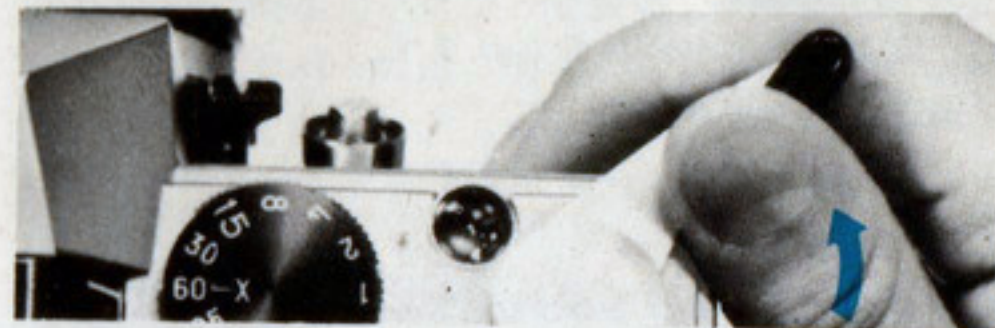
4. その先端を、カメラ底部側に引き、溝のいちばん狭い部分の根元まで引きこみます。



5. 巻上げレバーでフィルムを巻上げ、パーフォレーションが両側とも、スプロケットの歯車にしっかり噛み合うようにします。



6. 裏ふたを閉じ、念のため巻戻しクランクを起し、クランクが重く感じるまで軽く回して、フィルムのタルミをとります。



7. 巻上げレバーを巻上げ、シャッターを切る操作を空写しとありますが、これをフィルム枚数計が1を指すまでくり返し、ここから撮影に入ります。この空写しの途中で、巻戻しクランクが巻上げにつれて回っていけば、フィルムは正しく送られています。

TTL露出計の測り方

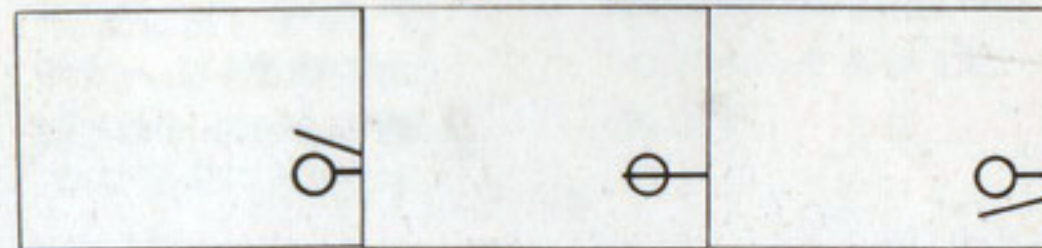
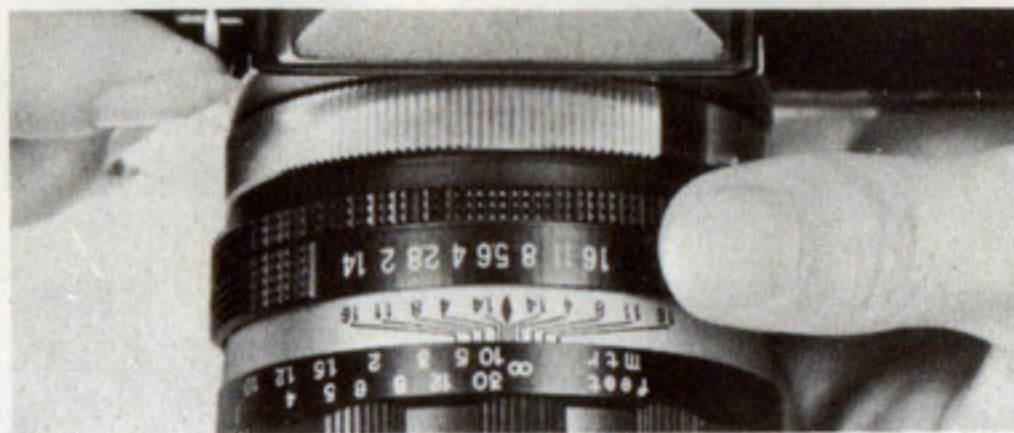
本機のTTL露出計は、CdSを2個用い、ファインダー接眼部の左右2ヶ所から画面全体の平均光量を測定します。また、開放測光のように機械的作動方法をとらず、絞りリングによって、レンズの開口面積そのものを、変化させて測るので、光に忠実な露出が得られます。この露出計は、ASA、シャッター、絞りの3点に完全連動するので、シャッターからも絞りからも、自由に露出が合わせられます。

適正露出の求め方は

1. あらかじめフィルム感度をセットしておきます。
(11頁参照)
 2. シャッター速度を決めます。室内や暗い被写体は $\frac{1}{30}$ か $\frac{1}{60}$ 秒、屋外や明るい被写体は $\frac{1}{25}$ 、 $\frac{1}{60}$ 秒などが適当でしょう。
 3. 絞り込みレバーをボディ側に押し
 4. 絞りリングを回し、ファインダー内のメーター針を指標と合致させると得られます。
- 絞りを先に決め、シャッターダイヤルで露出を調節

することもできますが、シャッター速度が目盛の中間で適正となった場合は、近い方の速度を選び、絞りで誤差を調整してください。

- あらかじめセットしたシャッター速度で露出を求め、適正値が得られない場合は、その速度が不適当ですので、セットをし直してください。



※被写界深度の確認

絞りこみレバーは、露出の測定と、被写界深度の確認を行いません。レバーを離すと、レンズは絞りがセットされたまま、開放に戻るのので明るいファインダーで、撮影ができます。

レンズ部の手動絞り切換レバーは、レンズとカメラの間に、接写リングなどを装着した際に使用するので、通常はレバーの白い切りこみがAと合っている状態でお使いください。

カメラの構え方

美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構え、ブレないようにしなければなりません。ピントの悪い写真の大半がカメラブレです。慣れるまでくり返し練習してください。

レリーズボタンを押すときは、一瞬、息を止めるようにし、指の腹で、ボディを押さえるように、静かに切ります。なお、 $\frac{1}{60}$ 秒以下のスローシャッターでは、三脚をご使用ください。

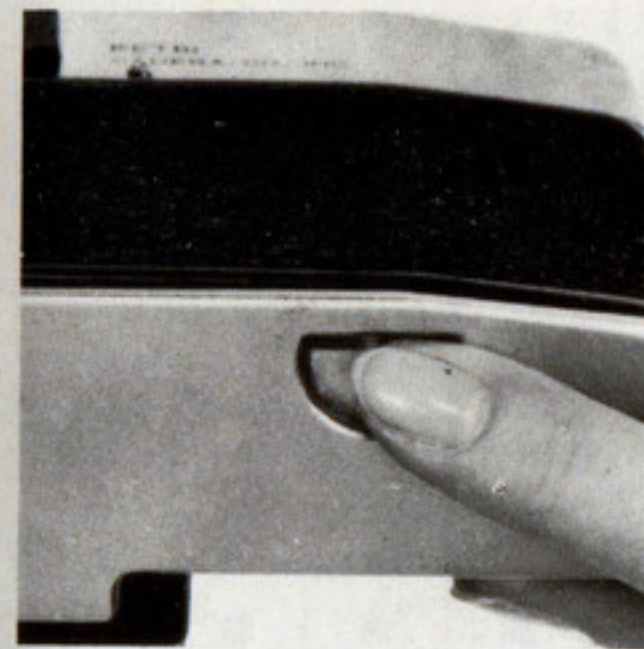
カメラの保持は、横位置でもタテ位置の場合でも、カメラの背面をヒタイや顔の一部に当てるようにすれば動揺が防げます。



●横位置にカメラを構えるときは、両ヒジを身体にしっかりつけます

●タテ位置の場合は、右ヒジを身体につけ、左手でカメラが動かないように保持します。

フィルムの巻戻し

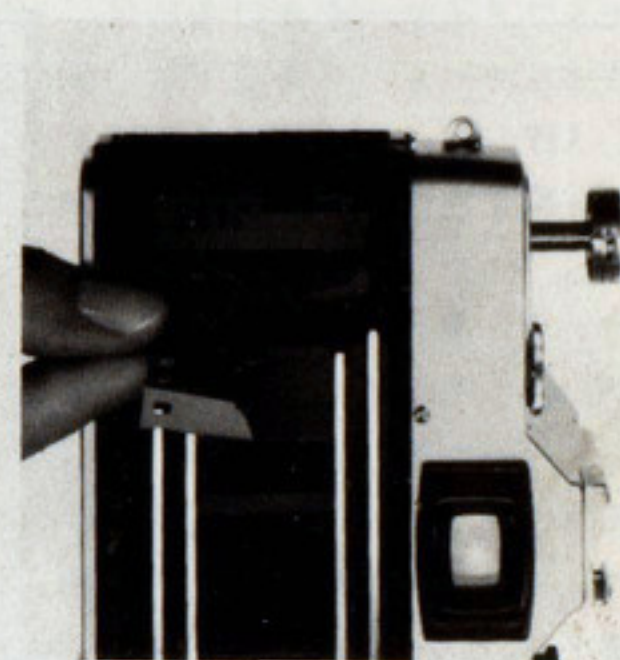


撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。撮影が終わったかどうかは、フィルム枚数計が20（20枚撮りフィルム）か36（36枚撮り）を指すか、巻上げレバーが作動しなくなるのでわかります。

巻戻しは、カメラ底部のリターン



ボタンを押し、フィルム巻戻しクラックを起し矢印の方向に回します。フィルムを巻戻している間は、クラックが重く感じますが、フィルムが巻取られ、巻取り軸からフィルムの先端が外れると急に軽くなり、巻戻されたことが確認できます。



●巻戻したフィルムは、直射日光を避けて取出ししてください。
●撮影済みのフィルムは、放置しておくとも結果はよくありませんので、早目に現像してください。

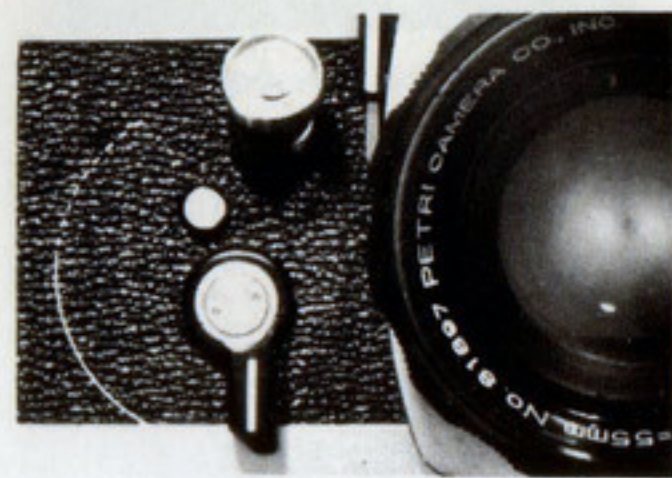
セルフタイマー撮影

セルフタイマーをかけるには、セルフタイマーレバーを真下に 180度押し下げ、セルフタイマーボタンを押すと約 9 秒後にシャッターが切れます。

- フィルムを必らず巻上げてください。巻上げられていないと、シャッターは作動しません。
- セルフタイマーのセットは、フィルム巻上げの前後いずれでも構いません。
- このセルフタイマーは、1 ストロ

ーク 9 秒になっていますが、中間位置も使用できます。ただしレバーを倒す角度が 90 度以内ですとシャッターが落ちません。それ以上の角度でお使いください。

- シャッター速度は、B 以外の全速度が使用できます。またセルフタイマーをセットしたまま、通常のレリーズボタンによる撮影もできますが、好ましくありません。



フラッシュ撮影

ペトリミニフラッシュ ガイドナンバー表

※ペトリ FT II にミニフラッシュを使用する時は、下記ガイドナンバー表(メーター)を使用して下さい。

ASA 100

	AG-1	AG-3	AG-1B	AG-3B
東芝	40	57	30	37
松下	39	54	30	44

シャッター $\frac{1}{30}$

夜間や室内で明るくきれいに写すには、フラッシュ撮影が必要です。本機にはコードレス接点が付いていますので、専用ガン或いはコードレスタイプのフラッシュガンをお使いください。ストロボはコードをシンクロターミナルに接続して使います。

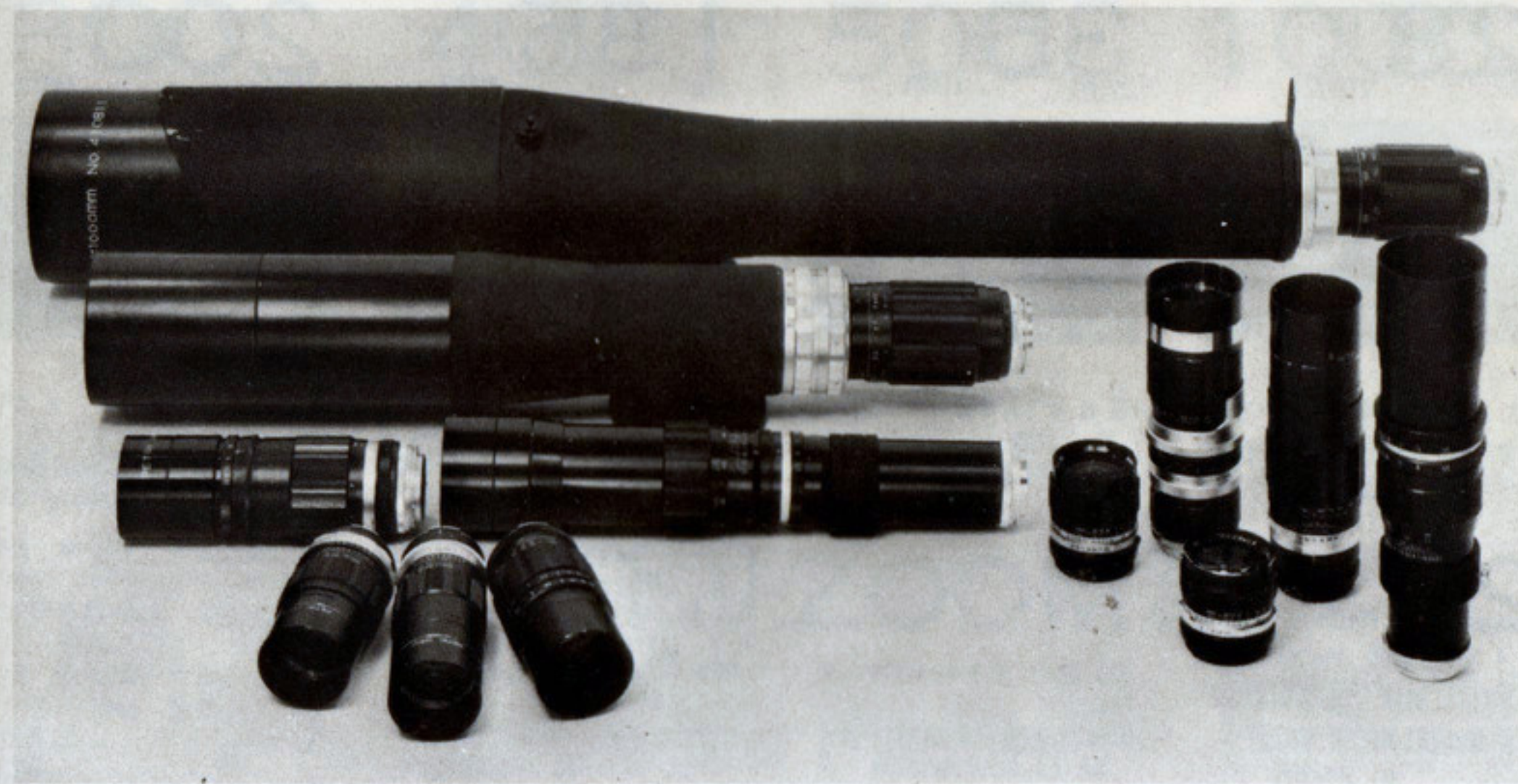
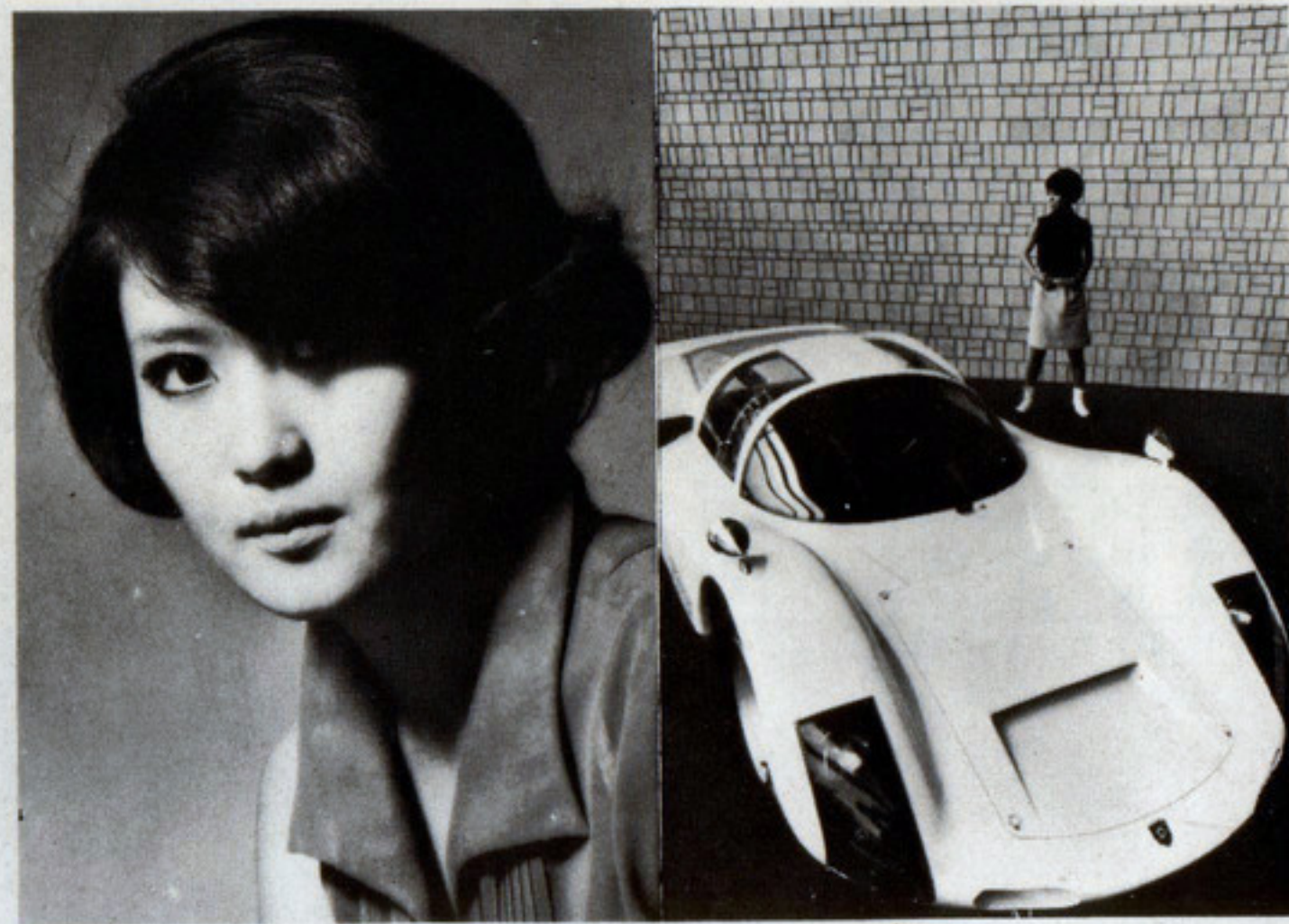
FP 級 $\frac{1}{125} \sim \frac{1}{1000}$ 秒
F 級 B, $1 \sim \frac{1}{60}$ 秒
M 級 B, $1 \sim \frac{1}{30}$ 秒
ストロボ X, $1 \sim \frac{1}{60}$ 秒



交換レンズの世界

一眼レフは、性質の異なるいろいろな交換レンズを駆使することによって、はじめて本来の機能を発揮します。

本機は広角28ミリから超望遠1000ミリまで、それにオートズームなど豊富な交換レンズ群が用意されています。その上、TTL測光は、レンズを変えても同じ使い方ができます。あなたも標準レンズを使いこなしたら、交換レンズの世界へ足を踏み入れませんか。



ペトリ専用交換レンズ群

28 mm



F3.5 ¥20,000 ケース¥1,000
7群7枚構成 完全自動絞
り 画角75°23' 230g

35 mm



F2.8 ¥19,000 ケース¥1,000
5群6枚構成 完全自動絞
り 画角63°26' 230g

135 mm



F3.8 ¥12,200
フード¥1,000 ケース¥1,800
3群3枚構成 完全自動絞
り 画角18°12' 350g

200 mm



F4 ¥21,400
フード¥800 ケース¥1,800
4群5枚構成 完全自動絞
り 画角12°21' 480g

300 mm



F5.5 ¥24,200
フード¥1,500 ケース¥2,300
2群4枚構成 プリセット
絞り 画角8°15' 700g

400 mm



F6.3 ¥29,600
フード¥1,800 ケース¥2,600
3群3枚構成 プリセット
絞り 画角6°11' 950g

500 mm



F5.6
3群3枚構成 プリセット
絞り 画角4°57' 3000g

1000 mm



F8
3群3枚構成 マニュアル
絞り 画角2°28' 8000g

21 mm

F4 ¥33,000 ケース¥1,500
6群9枚構成 完全自動絞
り 画角91°42' 370g

F3.5 ¥16,500
フード¥1,000 ケース¥1,500
3群4枚構成 完全自動絞
り 画角18°12' 415g

F5 オート ¥32,000
ケース¥3,500 フード¥1,500
3群5枚構成 完全自動絞
り 画角8°15' 最小絞り
22 最短撮影距離5.5m 最
大径75.6mm 全長211.7mm
重量850g フィルター径
67mm

ペトリZOOM群

45↔135mm F3.5 ¥43,000
セットバッグ ¥2,000
10群15枚構成 完全自動絞
り 画角51°21' ~ 18°12'

85↔210mm F4.8 ¥36,000
セットバッグ ¥3,000
8群13枚構成 完全自動絞
り 画角28°13' ~ 11°56'

80↔200mm F4.5 ¥57,000
フード¥1,200 ケース¥3,800
9枚11枚構成 完全自動絞
り 画角30°16' ~ 12°21'

専用アクセサリ

フード



丸型、止ネジ式。内面反射が完全に防止されあらゆる有害な乱反射を防ぎます。

F1.4用 カブセ式57mm
¥1,500(ケース付)

F1.8用 カブセ式54mm
¥1,500(ケース付)

フィルター



整色用、強調用として作画上大きな効果を生みます。カラー用も各種用意されています。ネジ込式金属枠付

F1.4用カラーUV
55mm ¥1,800

モノクロ用
55mm ¥1,500

F1.8用 52mm
モノクロ ¥1,500

カラー・UV ¥1,800

接写リング



カメラとレンズの間に装着し、小物体の接写や文献の複写に用います。

1・2・3号、マウントリング、アダプターリング共

1セット ¥2,500

ペロスコープ



これもカメラとレンズの間に装着する接写用具ですが、接写は蛇腹の伸縮によるので、実物より大きく標準レンズで2.2倍に写せます。

¥7,500

アングルファインダー



三脚にカメラをセットしたときやローアングルの撮影時は、これによってピント合わせが楽にできます。¥4,000(ケース付)

アイカップ



近視用強弱遠視用
各 ¥1,000

正常用 ¥700

専用フラッシュガン



もちろんコードレスタイプ、アクセサリシューに取り付けるだけの簡便さ ¥950

テレコンバーター(2倍)
¥6,700 ケース ¥300

一眼レフ用
セットバッグ



カメラと交換レンズ、フィルム、アクセサリなどが一緒に格納できる豪華な本革製ケース
¥3,000

カメラとレンズの手入れ

- カメラには、ホコリと湿気が大敵です。カメラはやわらかい布で拭き、カメラ内部はブローブラシか腰の弱いハケでホコリを除去します。
レンズはブローでチリをはらい、シリコンクロスなどでていねいに拭きとります。砂などがついたまま拭くとレンズにキズが入ってしまいますので、お気をつけください。
- 写さないで長く保管する場合は、ケースから出し、乾燥した風通しのよいところにしまいます。

- 保管する場合は、シャッターやセルフタイマーは、必ず切っておきます。
- シャッターや巻上げレバーなど、カメラを分解したり注油したりすることはおやめください。具合が悪いときは、保証書を添えてペトリサービスセンターへお持ちください。

お願い！

水銀電池のお取替えは使用済の電池と交換でお願いします。

カメラに使用している水銀電池は安全シールしていますのでカメラをご使用中に電池の中身が外に出ることはありませんが、身近かな水銀汚染をなくすために、新しい水銀電池をお求めの時は必ず使用済の水銀電池を持参し、カメラ店又は電気店にて現品と引換えでお求めください。

あなたの愛機は _____

Body NO. _____

Lens NO. _____

ペトリカメラ株式会社

本社 〒123 東京都足立区梅田7-25-12 TEL (887) 1111
東京営業所 〒102 東京都千代田区九段南2-4-16 TEL (261) 9981
横浜営業所 〒232 横浜市中区長者町2-5-4白井ビル TEL (681) 7145
大阪営業所 〒550 大阪市西区北堀江上通1-50 TEL (541) 5096
名古屋営業所 〒460 名古屋市中区栄3-11-9 TEL (251) 5691
福岡営業所 〒812 福岡市博多区上川端町14-13 TEL (291) 0653

仙台営業所 〒980 仙台市錦町2-1-3 TEL (25) 1489
札幌出張所 〒060 札幌市中央区南七条西10丁目 TEL (511) 0686
沖縄センター 〒900 沖縄県那覇市松山1丁目1番地11 TEL (68) 6469